

# 医心 伝心

## 脳卒中情報システム集計

県医師会理事 平野八州男

日本人の死亡原因として現在脳卒中は、がん、心疾患、肺炎に次いで第4位です。患者数は約150万人と言われ、毎年約25万人以上が新たに発症していると推測されており、2020年には約300万人を越すことが予測されています。

さまざまな後遺症を抱える事により、認知症を始め、寝たきりになる最大の原因が脳卒中であり、脳卒中発症が要介護要因の1位になっています。

高齢化社会を迎えた現代において健康寿命や社会保障においても重要な課題であります。脳卒中情報システム事業では、平成3年7月より県全域での脳卒中患者登録が開始され脳卒中患者の実態把握をしています。平成25年1月～12月までに集計された情報としては、3595件の登録があり、実登録人数3180人（男性1775人、女性1405人）頻回発症者を含むと、3237件（男性1805件、女性1432件）であった。医療圏別では新川医療圏428件、富山医療圏1524件、高岡医療圏800件、砺波医療圏485件で新川医療生活者の件数が他の医療圏に比べ人口規模に比べ登録件数が多かった。発症から入院までの期間は、当日入院が全体の65%、翌日入院13%、1週間を越すものも10%未満だがいた。顕著な性差や年齢差はみられなかった。病型では脳梗塞全体は67%、脳出血22%、くも膜下出血6%を占め、男女別では男性で脳梗塞全体は70%、脳出血21%、くも膜下出血4%、女性では脳梗塞全体は62%、脳出血23%、くも膜下出血9%と、男

性で脳梗塞全体、女性でくも膜下出血が多い傾向であった。

退院先では、全体では54%が自宅退院であり、転院も30%いた。自宅退院者率は男性では年齢差は無く、女性では高齢者で低くなっている。

退院時死亡率は、男性7%、女性10%、全体で9%であった。年齢別では男女とも85歳以上に高い傾向を示したが、その他の年齢群には顕著な傾向は見られなかった。

障害度では軽度障害以下48%、高度障害13%、死亡者9%を占めた。男女別では軽度障害者以下は男性53%、女性41%、高度障害、死亡者は男性10%、7%、女性18%、10%と男性の方が良好であった。

今後はこれらの貴重な情報を活用し、脳卒中発症者を早期に把握し適切な保険医療福祉サービスにつながる仕組みを構築し、脳卒中の再発を予防できるよう、又、予防から社会復帰までの対策、計画、評価に役立てるように、考えていかなければなりません。

脳卒中情報システム事業においても医師会、行政が一体になって今後も疾患の減少、予防に努力していく所存です。今後とも宜しく御協力の程お願い致します。